

令和7年度 公立小松大学入学者選抜試験
学校推薦型選抜（一般推薦）試験問題

課 題 作 文

【国際文化交流学部】

国際文化交流学科

（注意事項）

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないでください。
- 2 問題用紙は本文2ページです。答案用紙は1枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、縦書きで記入してください。
- 5 アルファベットや数字は、1マスに1字で記入してください。
- 6 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

I 次の文章を読み、筆者の意見を簡潔にまとめた上で、あなたの考えを書きなさい（800字以内）。

移民問題が争点となる最大の理由は雇用であるが、移民に雇用を奪われる懸念は新しいものではない。だが、シリアやイラクなどからヨーロッパに難民が流入するとともに、難民受け入れによってテロが拡大する懸念が加わり、移民と難民をともに拒む政策への支持が広がっている。

移民国家であるアメリカはもちろん、英独仏などヨーロッパ諸国では数多くの移民が住み、多民族多宗教の共存の実現が政治課題となってきた。各国による違いが大きいとはいえ、難民の受け入れにも取り組んできたといっている。

そのような地域で移民と難民の排斥を訴える勢力が台頭すれば、ただでさえ多数派の国民とマイノリティーの間に潜む対立が拡大しかねない。マイノリティーの一員であれば合法移民であっても迫害の対象となりかねないのだから、恐れるのは当然だろう。欧米地域におけるポピュリズムへの危機感は、民主政治のもとの強権拡大という危機に加え、あるいはそれ以上に、マイノリティーの排除に向かう政治に対する危惧に支えられている。

日本では、このような移民と難民の受け入れに対する懸念が共有されていない。従来、移民も難民も制約する政策をとってきたからである。

日本における植民地帝国の解体は独立運動を前にした撤退ではなく、敗戦による帝国解体というかたちで進んだ。日本は単一民族が居住する国家であるという観念もその過程で強まった。出生率の低下が経済に影響を与えた後も、移民規制は厳しく、難民受け入れはさらにわずかであった。

在日コリアンに対するヘイトスピーチのような深刻な問題を見逃してはならないが、現在の日本は、すでに多くの移民が居住し、難民受け入れが争点となっている欧米諸国とはやはり状況が異なるというべきだろう。アメリカやヨーロッパでポピュリストが移民排斥を求めるとき、日本は移民も難民も少ない社会を既に実現していた。

移民が少ないから移民排斥も争点になりにくい。欧米におけるポピュリズムと日本との違いがここから生まれる。民族や宗教による迫害が伴う醜い言説や暴力と対比して、日本が難を逃れたと考える人もいるだろう。

私はそう思わない。同じ国家のなかで民族や宗教の異なる人々がどのように共存できるかという問いは、単一民族の国家という観念が先に立つとき、脇に迫いやられてしまう。そこから生まれるのは日本国民の結束と優位を自明の前提とするナショナリズムの高揚である。

多文化の共存を試みた社会ではその枠組みが動揺し、「単一民族」の保持に努める社会が安定を誇る。多元社会に厳しい時代が始まっている。

（出典：藤原帰一「単一民族国家という観念」『不安定化する世界 何が終わり、何が変わ

ったのか』朝日新聞出版、2020年、232-235頁より抜粋)